

中央区内景気動向調査

平成30年8月調査結果

平成30年9月25日

中央区

総 括

平成 30 年 8 月の動き

中央区内における 8 月の現状判断 D I は合計で 48.5 と、前回調査から 3.0 ポイント低下している。景気の先行き判断 D I は合計で 55.0 と前回調査から 4.5 ポイント上昇している。

図表 景気の現状判断 D I、先行き判断 D I（合計）

(D I)	平成30年			前回調査 からの変化
	4月	6月	8月	
合計				
現状判断 D I	57.0	51.5	48.5	(-3.0)
先行き判断 D I	54.0	50.5	55.0	(4.5)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した50人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年6回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約1週間で、平成30年8月調査の調査票発送は8月7日（火）、回答期限は8月17日（金）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体50名に対し、有効回答客体は50名、有効回答率は100.0%であった。

7 DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DIを算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断DIは合計で48.5と、前回調査から3.0ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連DIは45.0と、前回調査から8.1ポイント低下し、企業動向関連DIは52.0と、前回調査から2.0ポイント上昇している。構成比では、「変わらない」と回答した人の割合が19.2ポイント減少し、「やや良くなっている」と回答した人の割合が9.6ポイント増加した。

図表1-1 各分野における景気の現状判断DIの推移表

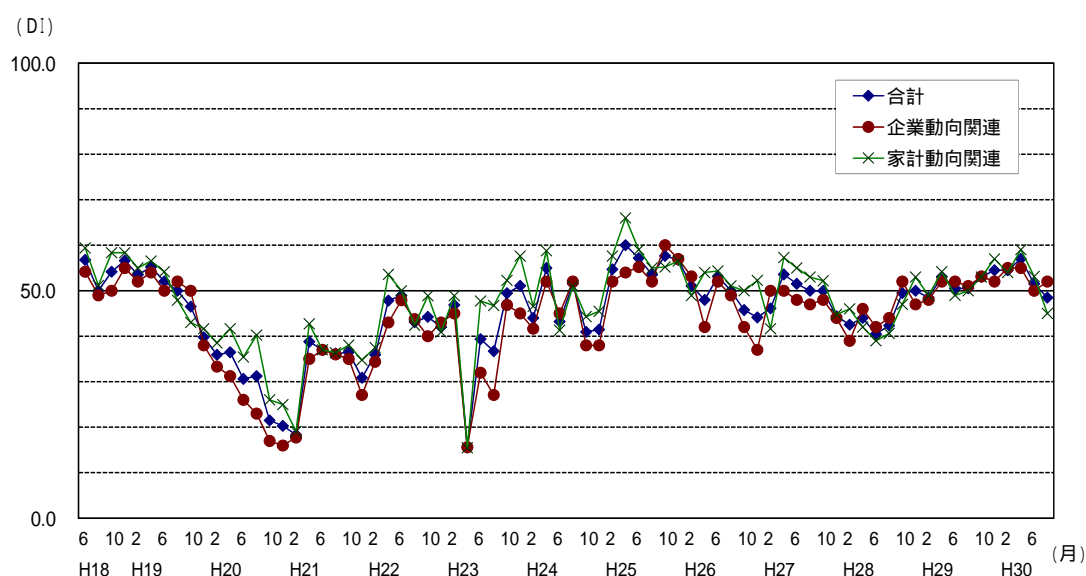
(DI)	平成30年			
	4月	6月	8月	(変化幅)
合計	57.0	51.5	48.5	(-3.0)
家計動向関連	59.0	53.1	45.0	(-8.1)
小売関連	62.5	50.0	50.0	(0.0)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	57.1	53.6	50.0	(-3.6)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	55.0	50.0	52.0	(2.0)
製造業	50.0	45.0	45.0	(0.0)
非製造業	56.3	51.3	53.8	(2.5)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1-2 構成比

年	月	良く	やや良く	変わらない	やや悪く	悪く
		なっている	なっている		なっている	なっている
平成30年	4	4.0%	34.0%	50.0%	10.0%	2.0%
	6	2.0%	20.4%	61.2%	14.3%	2.0%
	8	0.0%	30.0%	42.0%	20.0%	8.0%
(変化幅)		(-2.0)	(9.6)	(-19.2)	(5.7)	(6.0)

図表1-3 各分野における景気の現状判断DIの推移



2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断D Iは合計で 55.0 と前回調査から 4.5 ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連D Iは 56.0 と、前回調査から 3.9 ポイント、企業動向関連D Iは 54.0 と、前回調査から 5.0 ポイント、それぞれ上昇している。構成比では、「やや良くなる」と回答した人の割合が 13.6 ポイント増加し、「変わらない」と回答した人の割合が 11.1 ポイント減少した。

図表 2 - 1 各分野における景気の先行き判断D Iの推移表

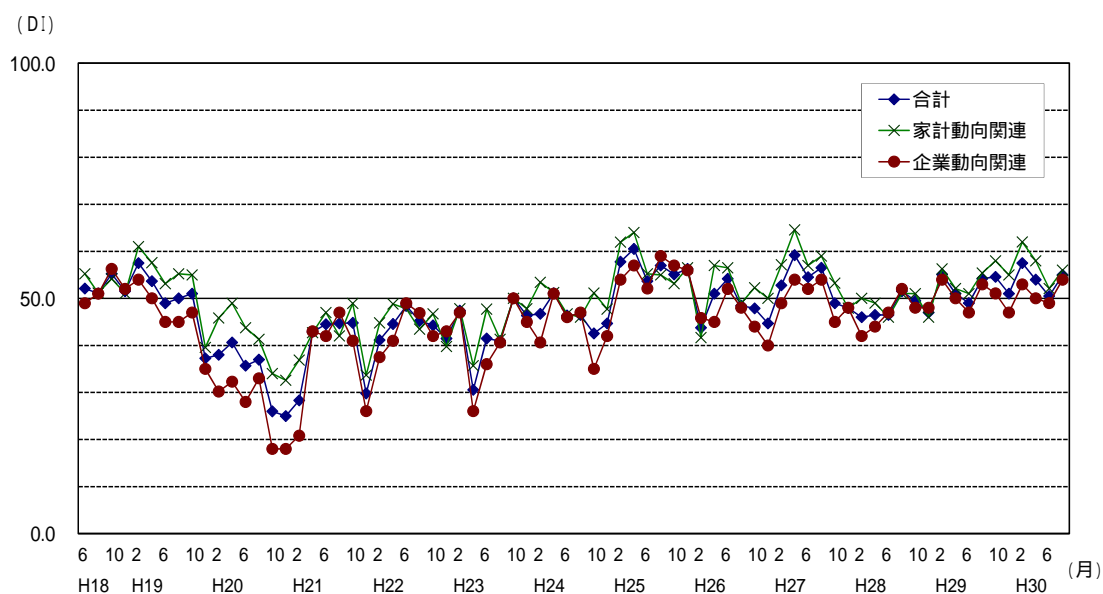
(D I)	平成30年			
	4月	6月	8月	(変化幅)
合計	54.0	50.5	55.0	(4.5)
家計動向関連	58.0	52.1	56.0	(3.9)
小売関連	58.9	48.1	53.6	(5.5)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	60.7	50.0	53.6	(3.6)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	50.0	49.0	54.0	(5.0)
製造業	35.0	50.0	50.0	(0.0)
非製造業	53.8	48.8	55.0	(6.2)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表 2 - 2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
平成30年	4	2.0%	32.0%	46.0%	20.0%	0.0%
	6	2.0%	22.4%	53.1%	20.4%	2.0%
	8	2.0%	36.0%	42.0%	20.0%	0.0%
(変化幅)		(0.0)	(13.6)	(-11.1)	(-0.4)	(-2.0)

図表 2 - 3 各分野における景気の先行き判断D Iの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

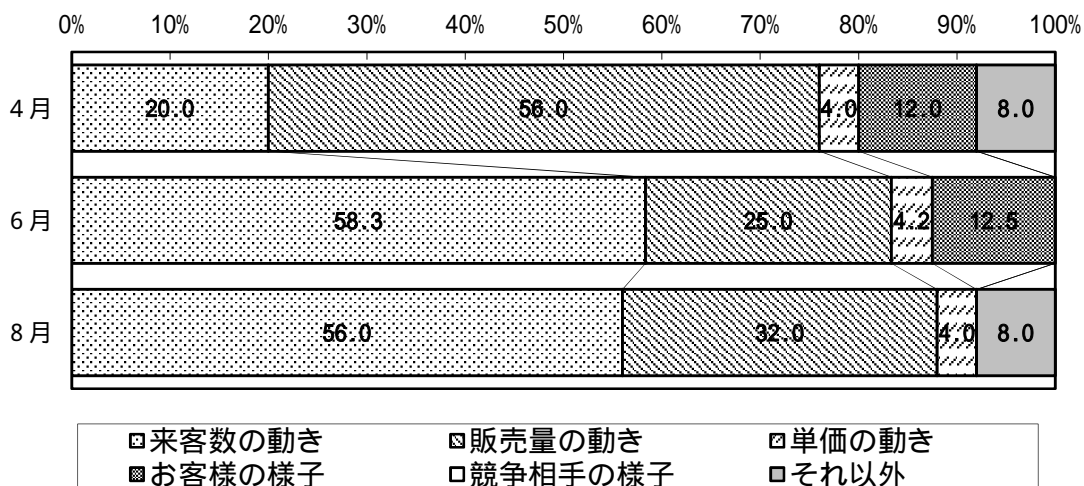
(D I)	平成30年		
	4月	6月	8月
合計	58.5	52.6	51.5
家計動向関連	62.0	56.3	47.0
小売関連	67.9	57.7	51.8
飲食関連	-	-	-
サービス関連	64.3	50.0	50.0
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	55.0	49.0	56.0
製造業	55.0	45.0	45.0
非製造業	55.0	50.0	58.8

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

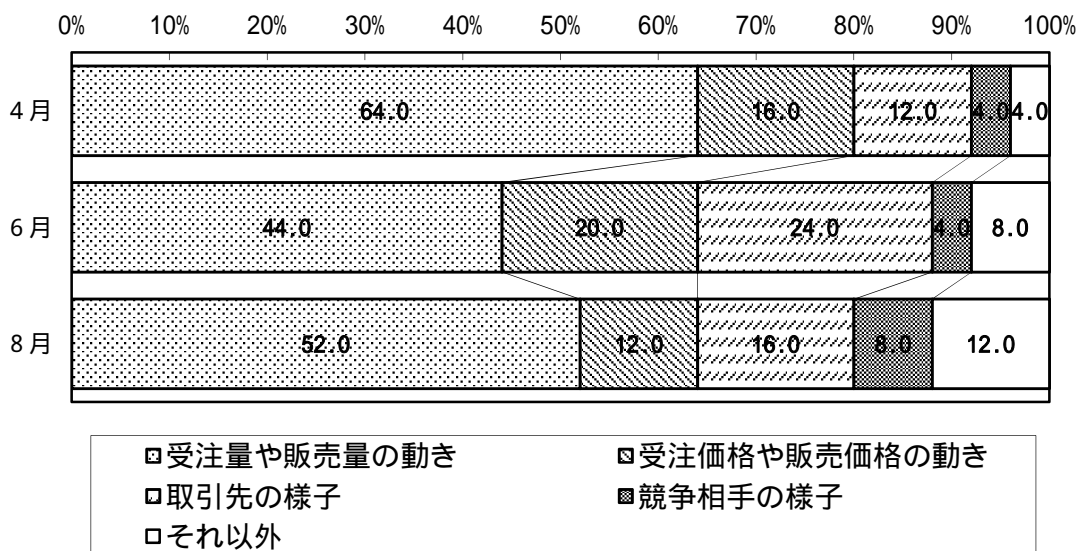
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-	
	やや良くなっている	一般小売店〔文具〕(販売担当)	販売量の動き	・7月はインパウンド客の買上率が高くなっている。何でもいから、良い商品を買う傾向になってきている。	
		百貨店(総務経理担当)	それ以外	・景気が上向いている実感はないものの、ボーナスの伸びが良いことなどから、都心では購買意欲が高い。	
		百貨店(広報担当)	それ以外	・株価が上昇し、訪日外国人客の消費も拡大している。	
		衣料品専門店(店長)	販売量の動き	・セール品でもまとめ買いが多く、よく販売できている。同色買いも多い。	
	変わらない	百貨店(総務担当)	来客数の動き	・例年になく厳しい暑さにより、客足が鈍っている。この天候が続けば、季節商材の在庫不足が予想される。	
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・猛暑、豪雨、台風などの天候影響もあり、売上が伸び悩んでいる。商品別では、婦人雑貨及び高額品の宝飾品、呉服、美術品が順調に推移している。	
		スーパー(店長)	来客数の動き	・前年を超えてはいるものの、昨年は近隣に競合他社が出店したため、それを加味するとほぼ変わらない。	
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・3か月前は、ゴールデンウィークなどいろいろと忙しかった。今月は、お盆に観光目的の客が全国から来るので、3か月前と変わらない。	
		都市型ホテル(経営者)	単価の動き	・景気に勢いがなく、業界にとってはやや高止まりで成長が望めない。また、価格に敏感になっている。	
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・第1四半期は販売数に余り顕著な伸びがみられない。	
	やや悪くなっている	衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・猛暑が続き、来客数が前年比で82%となり、売上も厳しい状況である。	
		高級レストラン(副店長)	来客数の動き	・予約状況は悪くないが、気温の高さや台風の影響でフリー客の来店が伸びない。	
		その他レジャー施設(経営者)	来客数の動き	・休日の多い4～6月よりもひどい。暑さが続き客足の悪いところに、お盆が掛かるお盆休みとあつては、良くなるはずもない。	
	悪くなっている	一般小売店〔事務用品〕(営業担当)	来客数の動き	・例年に比べて15%は減少している。猛暑や台風、豪雨など天候の影響も大きい。	
		高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・連日の猛暑や台風など、天候の影響により客足が遠のき、さらに8月は接待等も減り、閑散期ととらえている。前年と比べても来客数が10%以上減少している。	
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・7月からの連日の酷暑により来客数が激減している。例年、気温30度位であれば2～3割程度の落ち込みだが、35度以上になるとかなりの来客減である。	
	企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
		やや良くなっている	建設業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・工事量が増えている。
輸送業(従業員)			受注量や販売量の動き	・受注量、売上共に前年同月と比べて増えている。	
不動産業(企画担当)			受注価格や販売価格の動き	・オフィス賃料は引き続き上昇傾向にある。テナントの拡張や新規入居ニーズも旺盛である。	
卸売業〔機械器具〕(営業担当)			受注量や販売量の動き	・年度初めの受注が大変悪く、少しずつ受注量が増えてきている。	
経営コンサルタント			受注量や販売量の動き	・夏休みに入り、繁華街は人出が増加しているが、今年は暑過ぎるため、例年に比べると人出がやや少ない。	
その他サービス業〔ビルメンテナンス〕(営業担当)			受注価格や販売価格の動き	・今年は特に異常気象ということもあり、空調関係のトラブルが多々発生している。急な対応や修繕の依頼量がかなり増えており、迅速さを求められているので、価格は通常より高く見込める。	
変わらない	出版業(経営者)	それ以外	・東京オリンピック前の特需もあり、景況感は悪くない。しかし、どの企業もポストオリンピックへの警戒感を有しているようである。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		出版業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・夏休みシーズン真っただ中であるが、週刊誌、月刊誌共に発行部数が増えるわけでもなく、通常月と変わらない。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・建設業界は、東京オリンピック需要が決着する。2020年以降の需要予測に注力していく。仕事は減るが、人も減るので高コスト化を見込んでいるところが多い。小売業は中国人客の購買力に期待している部分が多く、キャッシュレス対応など店舗レジの開発に着手しているところが多い。他業種では、明るい見通しの話は余り聞かない。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・人手不足の深刻化により、受注業務が円滑に遂行不能となり、逆にペナルティー請求され、信用、信頼をなくす。
	やや悪くなっている	印刷業・製本業（営業担当）	取引先の様子	・5月以降仕事量が減少している。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・検討が先送りとなる案件が増えている。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・夏休みの会社が多いので売上が減少している。
	悪くなっている			

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般レストラン(経営者)	・陽気良くなるにつれて、来客数も増える。飲食店にとっては極端な気温は来客数に響く。
		一般小売店[靴](店長)	・株価の動きから見て、大手企業の業績が安定している。
	やや良くなる	一般小売店[文具](販売担当)	・当地域はインバウンド客の買い方に変化があり、良質な商品を求めるので、単価がアップしている。日本人客にも同様の傾向がある。
		百貨店(総務担当)	・秋らしい季節の到来に期待を寄せている。高額品が引き続き順調に推移しているのに加え、免税売上も好調である。
		百貨店(総務経理担当)	・前年、今年と猛暑や暗いニュースの反動で、秋に向けて外国人観光客の増加や消費が増えることに期待している。
		百貨店(広報担当)	・株価の上昇と訪日外国人客の消費拡大が見込める。
		衣料品専門店(店長)	・シーズン変わりで羽振りが良くなる。
		高級レストラン(経営者)	・現在が最も悪い状況だと推察している。季節的にも飲食、宴会が増加してくるとみている。長期的に考えれば、最盛期を迎えるのは難しい。また、各店舗の営業努力も必要であろうと認識している。
		高級レストラン(副店長)	・暑さが落ち着き、外出する人が増えるので、今よりは来客数が見込める。
	通信会社(営業担当)	・2020年の東京オリンピック景気の兆しが、各企業、特にゼネコン各社に徐々にみられる。	
	変わらない	一般小売店[食品](店長)	・3か月前と比べればやや良くなっているというか、取り戻している状況である。ただし、来客数、売上が急激に落ち込む日が月に数日あり、今後が読めない。
		百貨店(総務担当)	・消費マインドは決して悪くない。好調なインバウンドも含め、うまく秋の気候に移行すれば、基調は変わらず良いとみている。
		スーパー(店長)	・現状のまま変わらない。
		コンビニ(店長)	・ここ数か月の売上動向を見ても、プラス、マイナスどちらにも向かうような要因がなく、当面は現状維持と考えられる。
		都市型ホテル(経営者)	・相変わらず財布のひもは固く、これから消費が伸びる感じがしない。
		通信会社(営業担当)	・新しい技術やサービスを取り入れようとする動きはあるものの、導入に関して慎重な客が多く、直近で顕著な動きはない。
		競馬場(職員)	・客の購買額も横ばいであり、今後2~3か月先も大きな変化はない。
	その他レジャー施設(経営者)	・現在の客足の悪さから、涼しさが戻ってきても、当分は変わらず、悪いまま秋を迎えそうである。	
	やや悪くなる	一般小売店[和菓子](経営者)	・悪天候による災害の影響で、購入意欲が落ちるのではないかと。
一般小売店[事務用品](営業担当)		・8月は良くないが、9月以降は巻き返しがある。	
スーパー(店長)		・10月1日から更にたばこが増税される。明るいニュースが余りない。	
一般レストラン(経営者)		・例年、9~10月はよく分からないが悪くなる。9月は夏の疲れがあるのではないかと。	
旅行代理店(店長)		・秋、冬の申込状況が鈍い。	
企業 動向 関連	悪くなる	-	-
	良くなる	-	-
	やや良くなる	印刷業・製本業(営業担当)	・半期末でB to Bが動いてくる見込みである。
		建設業(営業担当)	・発注案件が増えている。
		建設業(営業担当)	・仕事の引き合いが多く来ている。
		輸送業(従業員)	・受注量の増加が見込める。
		金融業[証券](営業担当)	・低金利が続くなか、客のスタンスは リスクを取り、利回りを維持する、 低利回りでも買う、のどちらかに決まってきたり。低利回りなので見送るという状況と比べると、先行きはやや良くなる。
不動産業(企画担当)	・オフィス賃料の増額改定が順調である。仲介会社等からのオフィスニーズ情報や問合せがとても多い。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		卸売業〔機械器具〕 (営業担当)	・年末納めの物品の受注が取れ始めている。
		経営コンサルタント	・天候不順につき外出を控える人も多くなるが、物販はインターネット通販で購入できるなど、更に利便性が向上するため、一概に人出だけでは判断ができないのではないかと。
	変わらない	出版業(経営者)	・2020年までは景気は悪くないが、その後は東京オリンピック不況が確実に来るのではないかと。
		出版業(営業担当)	・個人消費の増える要素が見当たらず、広告代理店からも明るい話は聞こえてこない。
		建設業(経営者)	・周囲の状況から判断して、現在のやや良い状態が引き続き継続していく。
		金融業〔証券〕(営業担当)	・米中の貿易摩擦により、様々な部分でコスト上昇、あるいは部材調達への支障がみられ始めている。建設業においても、人件費の上昇による影響が顕在化し始めており、景気全般としては強めの印象ではあるものの、今後の見通しということでは中立としている。
		卸売業〔繊維・衣服等〕(営業担当)	・景気が悪いわけではないが、見通しが明るいわけでもない。
		卸売業〔飲食料品(鮮魚)〕(経営者)	・日米共に選挙が終わるまでは動きが少なく、良いも悪いも不透明である。
		卸売業〔機械器具〕(経営者)	・当面の状態が変化する様子が見られない。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕(営業担当)	・常にどんよりとした不安感がつきまとう。
		その他サービス業〔造園・園芸〕(営業担当)	・現状で良いと感じないため、2～3か月先では変化はない。年末の状況や、今年度の傾向を見ないと分からない。
	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕(営業担当)	・最低賃金の上昇に伴い、原価的に厳しくなるが、身の回りについては、各値上げ等も見込まれているため、余り変動は起きないと思われる。	
	やや悪くなる	印刷業・製本業(経営者)	・受注価格や仕入れ価格が下落している。企業の収益が落ちて、節約ムードが上昇する。
		通信業(営業担当)	・イラン、イスラエルを中心とした中東情勢の不安定化、原油価格高騰の懸念から、やや悪くなる。
		卸売業〔機械器具〕(従業員)	・公共事業における国の補助金投入が不透明になっている。自治体の事業発注が減少すれば、景気にマイナスの影響が出てくる。
	悪くなる	-	-

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連		25
	小売関連	14
	商店街・一般小売店	5
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	5
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	0
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	7
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	2
	通信会社社員	2
	レジャー施設関連	2
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	1
	その他サービス	0
	美容室経営者・従業員	0
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連		25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	5
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0